

## 活用される G 空間技術

### 準天頂衛星システム

日本独自の衛星測位システムのこと。愛称は「みちびき」。準天頂衛星は日本の天頂付近に配置されるため、アメリカの衛星測位システム（GPS）と比較しても、測位可能な時間と場所が拡大するとともに、独自の補強信号を利用することで測位精度と信頼性が向上する。簡単なメッセージ送信機能も備えており、災害時の活用が期待される。2010年代後半を目指して4機体制を整備することが目標。



### 屋内の測位環境整備（屋内測位）

測位衛星の測位信号が受信できない地下空間等の屋内空間で位置情報を活用したサービスを行うには、新たに測位環境を整備する必要がある。現在、IMES（Indoor Messaging System）測位や、Wi-Fi測位、BluetoothLowEnergyを利用した測位、それらの媒体を共通に識別する場所情報コード等、様々な方式による整備が行われている。

### ネットワークロボット

ネットワークと連携したロボットのこと。ロボットが個々に機能するだけでなく、ネットワークを通じて相互に協調・連携することにより、より多様で高度なサービスを提供することができる期待されている。例えば、高齢者支援においては、健康情報や医療・介護情報を基に、よりきめ細かな予防サービスやライフサポートを提供することが可能となる。

### UAV (Unmanned Aerial Vehicle)

無人航空機の総称。ドローンとも呼ばれる。無線で操縦するもののほか、事前に飛行経路をプログラムしGPS機能で自動飛行を行うことができるものもある。近年、民生利用が広がっており、空中写真撮影や農薬散布、インフラ管理、災害監視等で活用されている。

### 3次元地図

紙の地図のような平面（2次元）情報に、ビルの高さや土地の標高などの立体（3次元）情報を加えた地図のこと。3次元測位技術の進歩により整備が進んでいる。高齢者や障がい者等に向けたバリアフリーマップや、災害時の被災シミュレーションや誘導等の防災での利活用が見込まれ、今後一層の整備が期待されている。

### オープンデータ

オープンデータは、機械判読に適したデータ形式であって、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータと定義される。オープンデータの流通・活用が広がることで、新ビジネスの創出や企業活動の効率化、政策決定の効率化や高度化等が図られると期待されている。

### G空間 × ICT のマークについて



このマークは、「G空間×ICT推進会議」の検討テーマであったG空間×ICTに関連し、  
①G空間とICTの融合  
②準天頂衛星の8の字軌道  
③地球と準天頂衛星  
④無限大（∞）の可能性  
を表現しています。

### G空間シティ構築事業オフィシャルウェブサイト

<http://www.g-city.go.jp>

### 問合せ先

G空間シティ構築事業 事業管理支援法人

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル（株）野村総合研究所  
email gcity-info@nri.co.jp



## G空間シティ構築事業

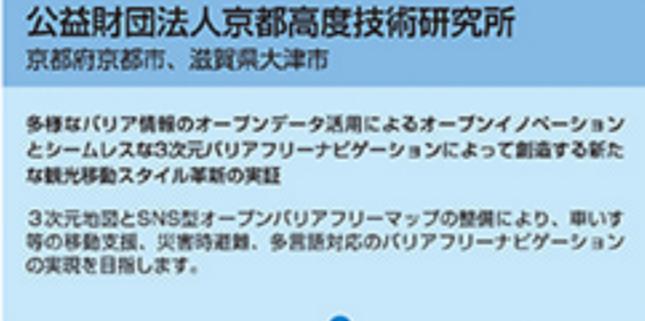
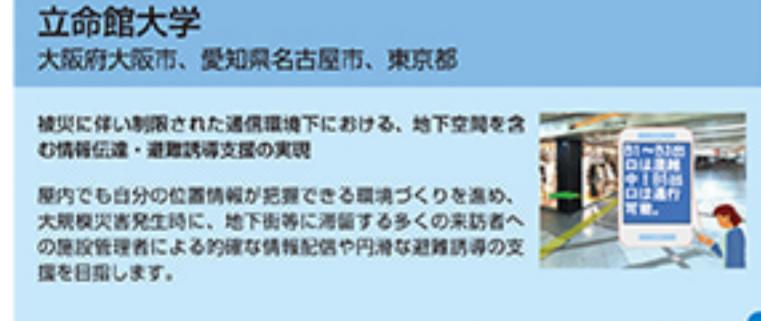
G空間シティ構築事業は、G空間情報のICTによる利活用を促進し、経済の成長力の底上げ及び国土の強靭化を図るため、「G空間×ICT推進会議」で提言された実証プロジェクトを実施するものです。

「世界最先端のG空間防災モデル」及び「先進的・先導的なG空間利活用モデル」について公募を行い、全国10事業が採択されました。

### G空間とは

「G空間（情報）」とは、ナノテクノロジー、バイオテクノロジーと並び将来が期待される三大重要科学技術分野の一つとされている「地理空間情報技術」（=Geotechnology）の頭文字のGを用いた、「地理空間（情報）」の愛称です。

G空間情報の具体的な例として、インターネットで見られるような地図、航空写真、携帯電話やカーナビなどの位置情報等が挙げられます。



- …事業中心地域
- …事業実施地域

